

五泉市立橋田小学校 いじめ防止基本方針

1 いじめの基本認識

- (1) 「弱い者をいじめることは人間として絶対に許されないこと」との強い認識に立つこと
- (2) いじめられている子どもの立場に立って親身に指導を行うこと
- (3) 家庭・学校・地域社会など全ての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって真剣に取り組む必要があること
 - ・ いじめの本質は人権侵害である。
 - ・ 被害者の傷は深く、人間性まで破壊していく。時には、命を奪うことさえある。
 - ・ 加害者も何らかの心の傷をもっている。
 - ・ 傍観者の存在が問題を深刻化している。

2 「いじめの防止等に関する基本的な考え方」を取り入れた教育活動

- ① 心の通う人間関係を構築するための素地を養うために
 - ・ 一人一人を大切にした学級経営（授業の中で多様な考えを認め、一人一人の個性を尊重する。）
 - ・ 月1回の SST・SGE の実践→実践カードに記入→学期ごとに実践報告→職員共通理解
 - ・ 児童会・学年による挨拶運動
- ② 児童の「居場所づくり」を進め、「絆づくり」を通じて自己有用感が感じられるようにするために
 - ・ ロングの昼休みにおける学級絆タイム、全校絆タイム（縦割り班活動）
 - ・ 事前・事後指導を充実させた協力し合う集会活動の実施（学期1回の重点活動）
 - ・ いじめ見逃しゼロ強調月間・いじめ見逃しゼロ児童集会「橋田っ子まつり」の実施
- ③ 児童がいじめに向かわないようストレスに適切に対処できる力を育むために
 - ・ QUテストの実施→おしゃべりタイム→支援シート→子どもを語る会（職員共通理解）
 - ・ 生活振り返りアンケートの実施（自分に対してとともに、他の人から見たアンケート）
- ④ 家庭・地域と一体となって取組を推進するために
 - ・ 生活指導だより「こころ通信」の発行
 - ・ 学校行事の学習ボランティアの呼びかけ
 - ・ 家庭教育学級の運営委員の保護者を中心に、県の「いじめ見逃しゼロ集会」への参加
 - ・ スクールガードリーダーの学校訪問
 - ・ 橋田地区育成協による挨拶運動
 - ・ 社会体育スポーツ少年団との連携
 - ・ 五泉市スクールカウンセラー活動事業計画の活用

3 活動の実際

(1) Preparation (準備)

- ①職員への概要説明（子どもを語る会）
- ②QU テスト・生活振り返りアンケート(年間2回)の実施

(2) Education (教育)

- ①アンケートの結果の分析と検討
- ②いじめ等対策委員会での検討と対応協議
- ③いじめに対する職員の共通理解（子どもを語る会）
- ④目標の設定と共通理解（成果，教育活動，運営活動の評価項目・評価基準設定）

(3) Action (行動)

- ①学校行事や児童会行事と関連した生活目標の設定
- ②道徳や学級活動等を活用したいじめに対する意識の向上
(SST もしくは SGE を取り入れた授業を毎月実施する。)
- ③学校行事や児童会活動等の教育活動の実施（縦割り班活動）
- ④QU テスト（年間2回）に基づいた支援計画の作成と、おしゃべりタイム(年間3回)の実施

(4) Coping (対処)

- ①道徳や学級活動の時間や児童会でいじめについての話し合いと取組
- ②職員研修（生徒指導，人権教育，同和教育，SST 及び SGE）の実施（夏休み）
- ③倫理観や思いやりをテーマにした道徳授業（6月の学習参観にて全校一斉授業の実施）
- ④支援計画に基づいた支援・指導
- ⑤気になる児童への相談の実施
- ⑥気になる児童の保護者への連絡と相談

(5) Evolution (評価)

- ①おしゃべりタイム実施による評価（年3回）
 - ・いじめに対する意識が改善され，いじめ問題が解消されたか。
 - ・学校に対する不適応やストレスの減少，適応感の増加が見られたか。
- ②子どもの言動についての話し合いと指導方針の確認（子どもを語る会）
 - ・生活目標の反省
 - ・子どもの言動について情報交換，共有化，指導の統一
- ③評価と次年度への提案のまとめ

【児童の不適応行動・問題行動・虐待被害への対応】

担 任	児 童	職 員
<p><u>(1) 一人一人の児童の状況を把握し、相談・指導を行う。</u></p> <p>○家庭環境や交友関係等の把握</p> <p><u>(2) 管理職に報告し、組織的な指導を行う。</u></p> <p>○速やかに報告</p>	<p><u>(1) 不適応状況</u></p> <p>①コミュニケーション不足 ②友達とのトラブル ③自信喪失，悩み，孤立状態 ④不登校傾向</p> <p><u>(2) 問題行動</u></p> <p>①ルールを守らない ②攻撃的な言動 ③いじめ，犯罪的な行為</p> <p><u>(3) 虐待被害状況</u></p> <p>①服装，栄養状態，言動の変化 ②体の傷やあざの有無</p>	<p><u>(1) 児童についての情報交換（子どもを語る会）</u></p> <p>①情報交換 ・気になる児童の状況や原因 ・効果のあった指導</p> <p>②観察児童の経過報告 ③職員全員による指導方針の確認</p> <p><u>(2) 児童観察と指導</u></p> <p>・不適応状況と問題行動，虐待のチェック</p>

管理職・生活指導主任

【第1段階】 担任－当該児童の教育相談・指導 経過観察

【第2段階】 管理職（生活指導主任）－当該児童との教育相談・指導 経過観察

【第3段階】 管理職（生活指導主任），保護者－当該児童との教育相談・指導経過観察

【第4段階】 管理職（生活指導主任），関係機関，保護者－当該児童との教育相談・指導

【第5段階】 関係機関－当該児童の一時保護・指導

いじめへの対応

いじめ対策委員会

- ・ 校長
- ・ 教頭
- ・ 教務主任
- ・ 生活指導主任
- ・ 被害児童担任
- ・ 加害児童担任
- ・ 養護教諭
- ・ 聞き取りをした職員
時系列で記録する。

いじめの発生
被害児童の安全と確保

校長、教頭に連絡

どの職員が
誰に聞き取り
をするのかを
分担する。

どの職員が
被害児童への
支援を行うの
かを確認する。

事実確認と情報把握

- 「だれが、いつ、どこで、なぜ、どのように」いじめたのか、(5W1H) 確認し、「いじめ」の概要、原因、動機、背景を探る。
- 被害児童、加害児童、目撃児童や周りにいた児童等に、一人ずつ聞き取りをする。

市教育委員会、下越教育事務所等
へ報告

いじめ・不登校等対策委員会会議その1

臨時職員会議

被害児童、加害児童の保護者への連絡・家庭訪問

- ・ 事実聴取や事実確認を実施したことを報告

保護者の不安や不満
を謙虚に受け止め、誠
意をもって対応する。

被害児童との話し合い
(解消への取組1)

加害児童との話し合い
(解消への取組2)

校外への対応

- ・ 地域・PTAへの対応
- ・ マスコミへの対応

市教育委員会との
連携

被害児童と加害児童の話し合い(解消への取組3)

- ・ 校外のサポート会議の開催
- ・ 警察への報告
- ・ スクールカウンセラーの
助力を得る。

被害児童、加害児童の保護者への報告・家庭訪問

- ・ 経過や学校の対応を正確に伝え、謝罪と今後の解消への取組
について了承と協力を依頼する。

保護者間協議

- ・ 必要に応じて、被害児童と加害児童の保護者間で協議する。学校の指導
方針を伝え、保護者同士の協力事項を協議する。必ず管理職が立ち会う。

いじめ・不登校等対策委員会会議その2

周囲の児童への対応

- ・ 「いじめを傍観することは、いじめに加担することと同じであり、絶対に
許されないことである」ことを指導する。

継続支援・指導

事後対応

- ・ 事後報告書の作成